

標 題 優良系統デラウェアのジベレリン1回処理技術研修会を開催！

(ダイジェスト)

優良系統デラウェアのジベレリン1回処理技術研修会を出雲市の実証ほで6月24日に開催しました。生産者32名の参加があり、収穫期の果実品質をみてもらうことでジベレリン1回処理技術の有利性を実感してもらうことができました。

本県のぶどうの主力品種であるデラウェアは、生産者の高齢化による栽培面積の減少、燃油高騰や高齢樹の生産力低下によって収益性が低下している現状があります。優良系統デラウェアはジベレリン1回処理技術によって省力化できることと、裂果が軽減できるメリットがあり、優良系統デラウェアへの改植を関係機関一丸となって進めているところです。

6月24日には栽培管理基準等の周知徹底、果実品質と裂果軽減の効果を確認してもらうことを目的としてJAしまね主催で表題の研修会が開催されました。研修会は出雲市の実証ほで全県対象にて行われ、出雲地区を中心に生産者32名、関係機関9名の出席がありました。

研修会の内容は、①優良系統デラウェアの振興方針（農産園芸課）、②優良系統デラウェアのジベレリン1回処理果房の特徴（農技C果樹科）、③優良系統デラウェアのジベレリン1回処理技術実証ほの内容（農技C技術普及部）で、裂果の軽減効果、糖度上昇の特徴や、摘粒軽減方法について理解を深めてもらえる機会となりました。

収穫直前の果実品質を見てもらったことで、「優良系統デラウェアの品質に不安があったが、これだったら希望がわいてきた」との発言もあり、果実品質が通常のデラウェアと比べ問題がないことを実感された様子でした。

来年に向けて、さらに栽培技術の周知ができるよう、引き続き関係機関と協力して支援を行っていきます。



園内の様子



研修会の様子